

各位

上場会社名 五洋インテックス株式会社
 代表者 代表取締役社長 大脇 功嗣
 (コード番号 7519)
 問合せ先責任者 取締役管理部長 小林 光博
 (TEL 0568-76-1050)

平成30年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成29年5月12日に公表いたしました平成30年3月期(平成29年4月1日～平成30年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

● 業績予想の修正について

平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,400	70	55	40	2.41
今回修正予想(B)	1,800	△140	△180	△140	△7.25
増減額(B-A)	△600	△210	△235	△180	
増減率(%)	△25.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	2,164	△22	△27	△24	△1.50

平成30年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,530	10	3	0.18
今回修正予想(B)	1,370	△100	△90	△4.66
増減額(B-A)	△160	△110	△93	
増減率(%)	△10.5	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	1,354	△50	△66	△4.08

- (注) 1 前回予想の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数16,598,995株に基づいて算出しております。
 2 今回修正の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数19,311,243株に基づいて算出しております。
 3 前期実績の1株当たり当期純利益は、期中平均株式数16,399,113株に基づいて算出しております。

修正の理由

我が国経済は、設備投資や個人消費の持ち直しの動きにより、緩やかな回復基調で推移しましたが、依然として海外経済の不確実性や人手不足の深刻化が懸念されております。当社グループを取り巻く事業環境は、室内装飾品関連(カーテン等)市場に影響を及ぼします新設住宅着工総戸数は減少しております。

このような状況の下、当社グループは、メインブランドであります「インハウス」見本帳を、平成29年5月に5年ぶりに大幅改訂しました。

売上高は、室内装飾品関連は主に回復が遅れている専門店への販売が振るわず、IT関連では平成29年10月6日付で子会社の株式会社レックアイが当社グループから外れ、平成29年7月に設立しました株式会社キュアリサーチの先端医療検査に関わるサービス事業では、遺伝子検査の事務代行サービスの開始が遅れるなど厳しい状況となっております。

今後の見通しにつきましては、室内装飾品関連では、景気の回復が遅れていた専門店への販売が上向き始めており、また、マンション業者への販売が堅調に推移することが予想されますが、全体では、当初の見込みを挽回するまでに至らないと考えております。

当初は、平成29年12月に事業を開始する予定でありました株式会社キュアリサーチの先端医療検査に関わるサービス事業につきましては、平成29年12月に設備が整いましたので、平成30年2月以降に事業を開始することを予定しておりますが、当社グループから外れました株式会社レックアイの当初の見込みを補うことは出来ないと考えられます。

利益面におきましては、見本帳「インハウス」の改訂に係る販売促進費用等の増加、営業外費用として、第三者割当増資に伴う株式交付費の発生、特別利益として株式会社レックアイの株式譲渡の売却益を計上するものの、株式会社レックアイの第2四半期累計期間までの損失が大きく、当初の見込みが黒字であったこともあり、全体では損失が拡大される見込みです。

なお、個別の業績予想の修正理由は、上記理由と同様であります。

(注) この資料に記載しております業績等の予想数値におきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上